

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000048
法人名	財団法人信貴山病院
事業所名	グループホーム はあとの杜 田原本
所在地	奈良県磯城郡田原本町大字小阪64-3
自己評価作成日	平成26年9月17日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成26年10月22日
評価結果決定日	平成26年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営主体が病院であり、様々な医療・介護サービス等の施設も運営しておりますので、グループとして迅速に連携をとって、その場、その時に応じた最良の医療・介護サービスを利用者様へ提供できる施設です。また利用者様に、「第二の我が家」と思っただけのように、スタッフの接遇・教育には力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・入居者や家族と関わりを常日頃より持ち、意見や意向を積極的に取り入れ、その方の生活をより豊かなものとなる様、人格を尊重したきめ細やかな対応をされています。入居者の方の笑顔や職員との関わりを拝見し、日常的に入居者の方と職員が共同で生活を送っていることが想像できます。・同一法人のデイケアに週5日利用出来ます。屋外へ出かける事や他者との交流機会があり、また、心身機能の維持・向上も図れます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

ユニット名 ()

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念の掲示及び名札に携帯しており、グループ全体で共有し実践しています	玄関に理念を掲示し訪問者にも明確に明示。また、個々の職員は名札入れに携帯し、いつでも確認できる様取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣スーパーや自治会に、個別にいかれています	地域の子供会の祭り、自治会の企画する介護予防的な活動に参加しています。職員も日頃より、近隣住民に挨拶をするなど、地域に溶け込める様意識づけをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等を利用し、説明・理解は随時しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見・希望等は、必ず回答し、出来る限りの改善はすぐ実行しています	2か月に1回開催。毎回、入居者家族、行政担当者、自治会長、民生委員、地域包括担当者に参加の案内を出し、多くの方の参加を呼びかけています。会議では、ホームの報告や、食事の試食会、アンケートなどを企画。意見を引き出して頂ける様工夫しながら取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の参加依頼はもちろんの事、町の連絡会参加依頼にもすべて参加、空き状況や相談事も適宜できています	行政担当者と空き状況の確認や介護相談などを日頃から意見交換を行い、連携が図られています。また、連絡会議にも参加され協力体制がとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、近くに交通量が多い国道があり、法人本部指示により常時施錠しています。施設内では離床センサーを活用して身体拘束を行わない取組また使用に対する同意書も頂いております	ホーム近隣に交通量が多い国道があり安全の為施錠していますが、法人内での虐待・身体拘束の内部研修を年に1回参加し、職員への意識啓発がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の外部研修等も管理者は受けて、常にスタッフには伝達・指導しています。また新人スタッフについては必ずOJTを行っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援を活用されている利用者様・成年後見人の方と契約している事例もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所では何時間かかってもご納得されるまでしっかりせつめいしている為、現在後からのクレームは一件もありません		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも第三者評価機関を記載しており、また推進会議等でも意見を伺っております。	意見箱を設置。また、面会カードにも意見記入欄があり希望要望を取り入れる体制があります。また、管理者は24時間電話で受け付けを行っています。	幅広く意見を聞こうとする姿勢は非常に高く感じられます。意見箱は共有スペースに設置されていますが、直接言いにくい事や、職員の前で記入する事を躊躇される方もおられるかもわかりません。スタッフの見えない場所に設置するなどし、記入しやすい環境の工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やカンファレンスは、定期的に機会もうけて、実施しています	月1回、運営に関する会議を開催し、管理者と職員との意見交換を行い、ケアの方法や業務内容を検討されています。また、年に2回、個別面談を行い、職員のフォローをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各担当業務を平等に均等分配し、その実行状況や成果を賞与に反映させています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全て施設の経費で、最低年一回は外部研修に参加するようにしている。また研修後はOJTをして、全員のスキルアップにつなげています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外の事業者様との相互訪問は出来ていますが、勉強会等は出来ていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークから入居に至るまでおよそ1ヶ月程度かけて、ご本人様・ご家族様へ安心できる関係性づくりを心がけています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様へは随時相談してもらえるように、24時間管理者への直通ダイヤルをお伝えしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に緊急性の高い・低い等色々な事例があるため、当法人及び近隣の介護サービスの利用も含めて説明しております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ食事を同じ場所でいただき、暮らしを共にする関係を築いてます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話・メール等を活用してその都度個別に最近の様子を説明して今後の方針等を話し合っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用料を振込ではなく、現金持参を家族様にお願ひし、疎遠にならないようご協力をいただいています	入居前の生活で図書館へ行かれていた方の、図書館への外出支援など、出来る範囲で対応されています。また、外泊し家族旅行をされる方もおられます。家族と協力しながら対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずに関わりあえるように、スタッフが都度介入して、関係性作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の相談はもちろんの事、家族様の許可があれば、退所後も面会に伺っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に趣味や希望を把握し、個別レクを行っています	入居前に希望、意向の把握をしています。また、入居後も、入居者や家族との関わりの中で、趣味や意向等の話があればケアに反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、出来る限りの情報は頂いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にかンファレンスを行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなく、全スタッフで常に話し合うようにしています	月に1回、ケアカンファレンスを開催。モニタリングを行い、6か月に1回は介護計画を更新しています。また、日頃のケア記録や家族との関わりを参考に立案し、面会時等に家族に説明し同意を得ておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全書式、追記があれば全スタッフ確認できるようにシステム化しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心、安全が保たれるのであれば、即時実行して支援しています(買い物や食事等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用や自治会の老人会の参加を頻度は多くないが利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、又家族様の希望を最優先し、自由に選択・決定していただいています、又地域密着として同町内にある内科医に月に1度往診に来て頂いております、当法人の診察も定期的に行っております	ホームとしては、内科・歯科は地域の個人クリニックの往診。訪問看護の週1回の訪問もあります。精神科は法人の病院への通院の体制がありますが、家族の協力を得て入居前のかかりつけ医の受診継続も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問や、24時間随時相談しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院及び往診に来て頂いている先生との連携により、近隣の病院との連携がとれております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当法人等、関係部署へ常に相談し家人様と話し合いをしています	家族の意向を確認し、ターミナルケアも可能ですが、医療面やホームでの対応を考慮しながら、法人内の病院や介護サービスと連携しながら、総合的なケアを法人全体でバックアップする体制があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡の把握・実施の徹底はできているが、全体的なスキルアップは今後の課題です		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練・教育行っており、又災害時近隣住民の協力が必要となるため、推進会議等で協力を呼び掛けている	ホーム内はスプリンクラー、消火器、緊急通報装置が設置され、設備が整っています。また、6月と12月に防災訓練を実施。有事の際は、自治会長が中心となって協力体制があります。備蓄は法人全体で整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部講師による、接遇研修は必須で受講して、常に意識しています	法人内で外部講師による接遇研修(基礎編・応用編)に全スタッフが受講しています。また、普段から、家族や、外部者が聞いても不愉快に感じない言葉使いを常に心がけています。	管理者の、「家族がいる時といない時の言葉使いが違うと言う事は人としてどうかと思う」と話された事が印象的でした。引き続き、人格を尊重した対応に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過度の促し、声掛けはしないよう心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てとはいかないですが、生活リズムを出来るだけ壊さないよう、心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容及び化粧レク月1度行っている、又ご本様の自立支援で化粧の支援も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常時出来ています	職員が週1回スーパーに買い出しを行い、野菜等は業者が配達。食材のあるもので、入居者の方と共に考え、準備や片づけを一緒にされています。また、弁当を持っての花見や外食もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるチェック体制を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回、個人にあった道具を利用し出来ています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスを行い、その方に応じたパット必要性及び適切な使用を心がけております	ケア記録で排泄の傾向を分析し、個々に声かけを行い、おむつや紙パンツ、パッド等の必要性を考えながら自立支援に心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師と常に連携を取って対応しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課にそってしているのが現状です	週2回はデイケアで入浴。日曜日はホームで入浴されています。現状では日中のみの対応ですが、仲良しの方は一緒に入る等、楽しみながら入浴できる様工夫されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペース自由にさせていただいてます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が病院ですので、主治医とすぐ連携し症状変化には対応できています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクとして取り組んでいます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にはまだまだ添えていません	周辺の散歩や近隣の喫茶店に行く時があります。また、週5回同一法人のデイケアに通っています。その他、個別での外出はありませんが、花見や紅葉狩り、大衆演劇の観劇、食事会を企画されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり管理の人や、個人所持の方も出来るだけ希望にそえるようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本적으로ご自由にさせていただいています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に混乱を招くような事は現在ありません。季節感等は、ポスターを貼ったり工夫しています	共有空間は広く、天窓から柔らかい光が入ります。また、照明の位置も違和感を感じ変更するなど、入居者の方が居心地の良いスペースとなる様に配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブル・座席の他にソファを設置しており、座席の配慮も常に行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険がなければ、自由にさせていただいています。又馴染みの物も持参していただいています	ベッド以外は、入居者の方の私物を使用。裁縫道具等も、心身の状態に合わせ危険でない判断があれば、居室に置くことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示等、出来るだけご自分で考えていただき、行動できる配慮をしています		